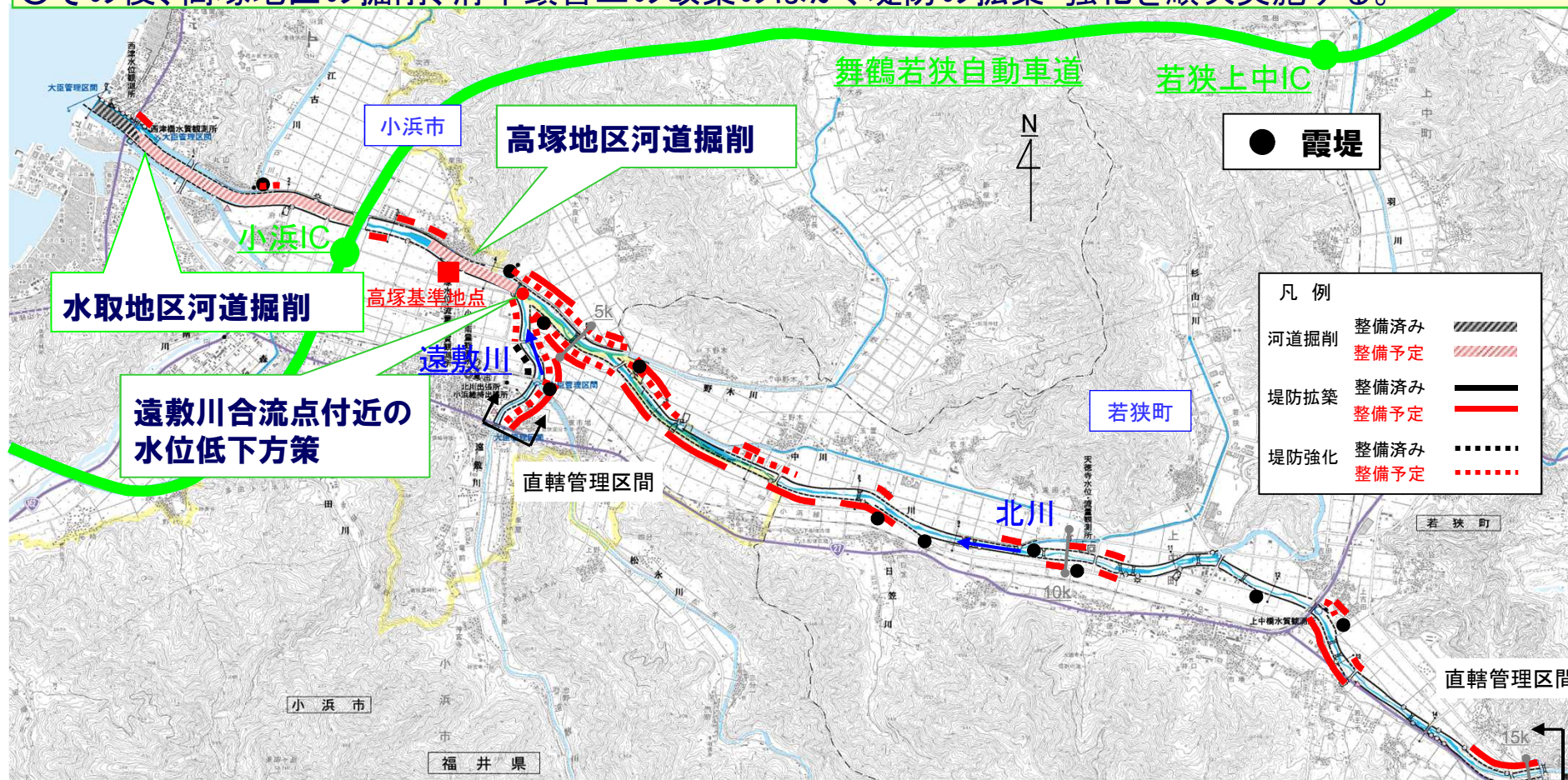


北川水系河川整備計画に基づく 事業等の進捗点検について

国土交通省 近畿地方整備局
福井河川国道事務所

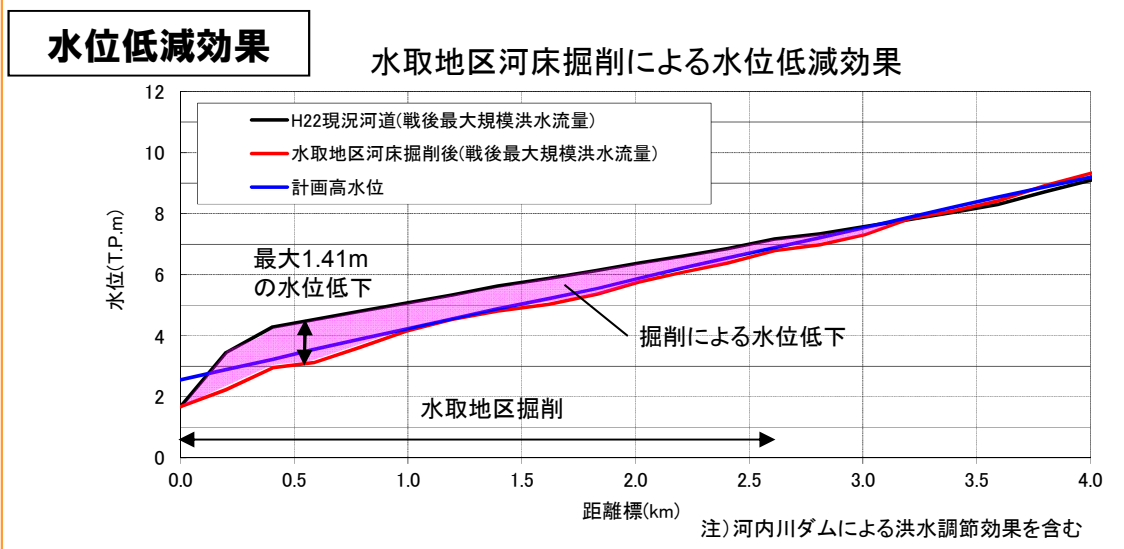
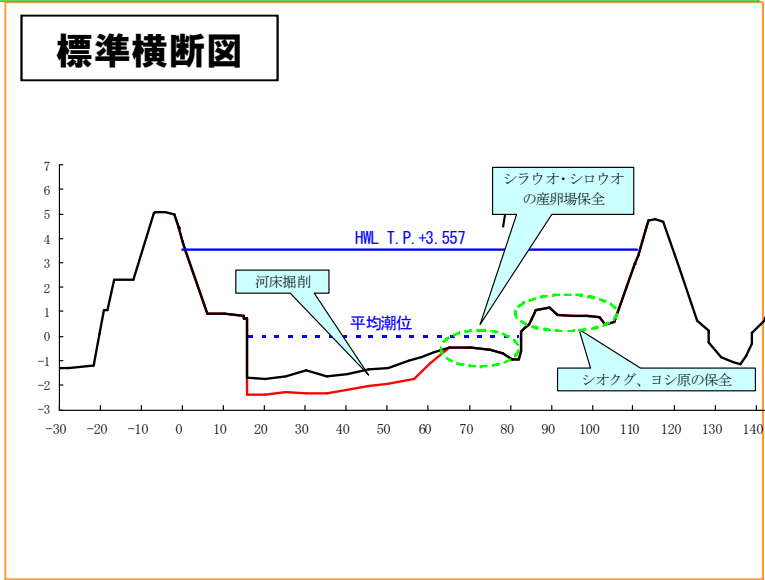
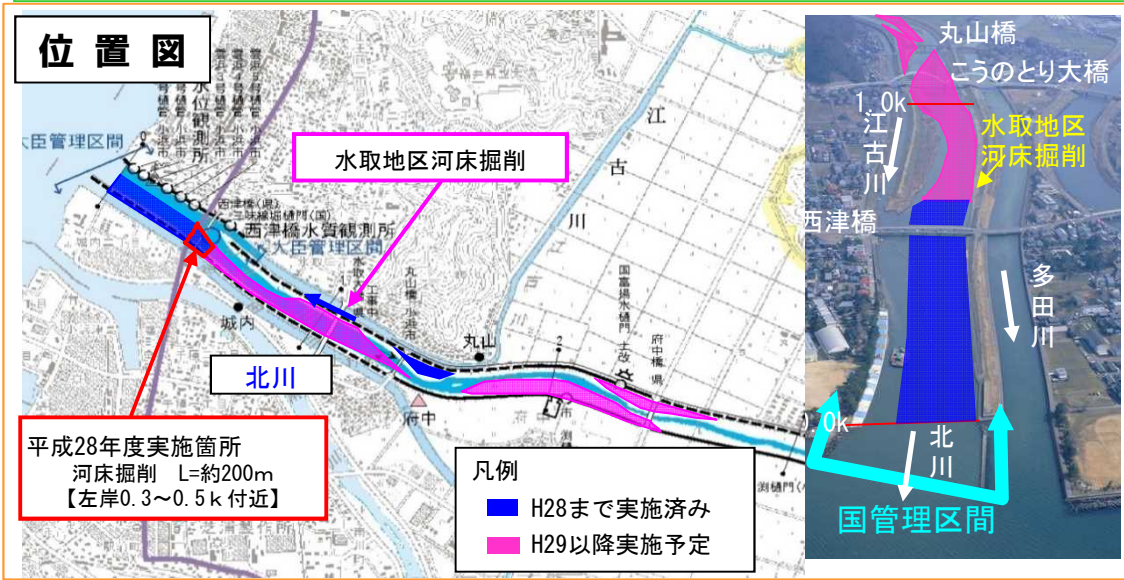
河川整備の概要(河川整備計画の主な事業内容)

- 北川水系の 河川整備計画では、戦後最大規模の洪水(昭和28年9月)を安全に流下させることを目標とする。
- この目標に対し、主に河床掘削、堤防拡築・強化、頭首工改築、維持掘削等を実施する。
- 今後は、資産が集中する水取地区の改修を進めるとともに、「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づくハード対策を実施する。
- その後、高塚地区の掘削、府中頭首工の改築のほか、堤防の拡築・強化を順次実施する。



【個表No.1】 水取地区河床掘削

- 北川の国管理区間のうち、小浜市街地を洪水防御区域に含む遠敷川合流点から下流の区間は、戦後最大規模の洪水(昭和28年9月)に対して流下能力が不足している。
- 小浜市水取地先において流下能力を確保することで治水安全度の向上を図る。



【個表No.17】堤防、護岸等の維持管理の実施

- 河川管理施設等の機能維持を図るため、日常的な巡視、計画的な補修・更新等を実施している。
- 河道の流下能力を維持するため、適切な樹木管理、維持掘削などの河道管理を実施。
- 平成28年度においては、刈草を堆肥化することで処分費用の縮減を実施。

主な維持管理

維持掘削



○出水等による土砂堆積物を除去し通水能力の改善に努める。

護岸補修



○護岸の老朽化や洗掘による損傷について、堤防への影響等を考慮し、必要について補修する。

堤防天端補修



○堤防の亀裂や法崩れ等の恐れのある箇所について、必要に応じて舗裝修繕を行う。

刈草作業



○出水期前後の春と秋に堤防の亀裂・陥没等の有無を点検するため、堤防の草刈りを実施。

堆肥の作成

北川の堤防で刈り取った草は、これまで有料処分としていたが、資源の有効活用やコスト縮減を目的として、試行的に堆肥化を行った。

堤防刈草で作った『堆肥』は大変好評で、来場者からは、「来年も実施して欲しい。必ず参加する。」などの要望も多数寄せられた。



①刈草搬入

②米ぬか混合

③堆肥の完成

堆肥の無償配布の状況



嶺南牧場における配布時の状況(平成28年11月) 3

【個表No.18】 河川構造物等の維持管理の実施

- 水門、樋門・樋管等の適切な維持管理、機械設備等は作動可能な状態を保持するため、定期点検(毎年1回)や必要な維持修繕を実施する。
- 平成23年以降、異常となる状況は確認されていない。
- 今後は計画的に更新を行う予定としており、点検の結果に基づき、計画的更新と併せて、施設更新及び必要な補修を進める。

○三味線堀樋門では、点検によりゲート履体の腐食が確認されたため取替を実施した（平成22年度）

実施前



ゲート腐食部



実施後



【個表No.28】 外来種対応の実施

○特定外来生物である「オオキンケイギク」については、直轄管理区間内でも確認されている。
 ○河川巡視等で確認された際には駆除作業を実施している。

オオキンケイギク です。

とていけいけいけいけい
 これは**特定外来生物**のひとつです

日本や自然に生息している植物ではありません。
 栽培・採集・運搬してはいけません。
 栽培で決まっています。 野合種にすることも...

花
 ○花径5cm-7cm
 ○葉長5cm-7cm

全体
 ○高さ100cm-200cm
 ○多年草
 ○下の節がついている
 ○節間に短い毛がある

葉
 ○この植物は非常に繁殖力が強いです。
 ○この植物は非常に繁殖力が強いです。
 ○この植物は非常に繁殖力が強いです。

防除(駆除)が必要

防除(駆除)にご協力を!

① ひっこ抜いて
 ② 乾かして
 ③ 種が飛ばないようにして
 ④ 燃えるごみへ

駆除に関するチラシ

オオキンケイギク
 駆除実績(H28年度実績)

【個表No.30】 危機管理に関する事項

【個表No.32】 河川に関する学習

水防災意識社会 再構築ビジョン

H27.12.11 記者発表

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「**水防災意識社会 再構築ビジョン**」として、全ての直轄河川とその沿川市町村（109水系、730市町村）において、平成32年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

＜ソフト対策＞ 住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。

＜ハード対策＞ 「洪水を安全に流すためのハード対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

主な対策

各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。



福井豪雨と台風18号の教訓

逃がす	<p>①福井豪雨では、避難勧告・指示が発令された地域の避難率が5%</p> <p>②足羽川の決壊箇所地域では、避難勧告・指示後まもなく決壊</p> <p>③台風18号の嶺南地方では、約2割の人が避難勧告の情報を受信できていない</p>
防ぐ	<p>④自主防災組織や消防団等の協力・連携の重要性を改めて確認</p> <p>⑤水防資機材の確認や円滑な水防活動を実施するための準備が必要</p>
復旧する	<p>⑥氾濫発生後の速やかな被害状況の把握が困難</p> <p>⑦状況に応じた物資搬送（車、ボート、ヘリコプター等）と需給バランスが必要</p> <p>⑧ボランティア活動等の支援活動の効率的な運用が必要</p>

※福井市資料、小浜市アンケート調査結果などに基づき事務局で編集

減災のための目標(案)

○5年間で達成すべき目標

平成16年7月の福井豪雨や平成25年9月の台風18号の教訓を踏まえ、九頭竜川・北川の大規模水害に備えて「**逃がす・防ぐ・復旧する**」ことに取り組み、次世代に「**水害に強い地域**」と水防災意識を「**継承**」する。

※大規模水害・・・想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水氾濫による被害

○目標達成にむけた取組方針

1. 逃げ遅れをなくす的確な避難行動のための取り組み
2. 氾濫時に人命と財産を守る水防活動の強化
3. 一刻も早く災害から復旧するための取り組み

【個表No.30】 危機管理に関する事項

【個表No.32】 河川に関する学習

1)ハード対策の主な取組

■洪水を河川内で安全に流す対策

- ・江端地区、江上地区の堤防整備
- ・中藤新保地区等の堤防整備
- ・片粘地区、水取地区他河道掘削

■避難行動、水防活動に資する基盤等の整備

- ・早期に氾濫が発生する地域等における洪水時の避難勧告等の発令判断に活用するため簡易水位計・量水標を設置し情報共有
- ・水防団等の水防活動を支援するためCCTVカメラを設置し情報共有

■危機管理型ハード対策

- ・天端の保護
- ・裏法尻の補強

2)ソフト対策の主な取組

①逃げ遅れをなくす的確な避難行動のための取り組み

■避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成・活用等

- ・避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成
- ・関係者の役割分担をより明確にしたタイムラインの改良
- ・避難のための時間を十分に確保した避難勧告を発令するタイムラインの検証と改善(活用訓練等の実施)

【個表No. 30】

■ハザードマップの作成・周知等

- ・想定最大外力を対象とした浸水想定区域図の策定・公表
- ・想定最大外力を対象とした氾濫シミュレーションの公表
- ・ハザードマップの更新・周知
- ・市町を越えた広域避難計画の検討
- ・災害時における逃げ遅れをなくすため、避難行動要支援者の避難計画の検討

■防災に関する啓発活動、水害(防災)教育の拡充

- ・「わが家の防災コンテスト」などの参加型の防災啓発活動をさらに進めるため、福井県内の小学生の参加者数(応募者数H26年度:95点⇒H27年度:178点)の増加を図り、域内全教育委員会に積極的に働きかける
- ・防災に関する補助教材を活用した小中学校と連携した防災に関する出前講座の取組み

■避難行動のための情報発信等

- ・避難情報を各世帯へ確実に届けるため防災行政無線の普及(無線のデジタル化等)
- ・避難情報を対象者へ確実に届けるためにケーブルテレビや防災メールへの登録、配信サービスやSNSの活用等
- ・防災対策や住民の避難行動の判断をより分かりやすくするため水位計やCCTVカメラの情報を提供(配信)
- ・住民の避難行動を促すためブッシュ型の洪水予報等の情報発信のための整備
- ・洪水予報文の改良と運用

②氾濫時に人命と財産を守る水防活動の強化

■水防体制の強化

- ・ロールプレイング方式による情報伝達訓練の実施による連絡体制の強化・確認(タイムラインの活用も検討)
- ・市町を越えた水防訓練の検討
- ・水防資機材の備蓄等の着実な確認
- ・水防団員や消防団員の募集の強化
- ・自主防災組織の活用、強化(組織の育成や立ち上げサポート等)

■水防活動支援のための情報公開、情報共有

- ・重要水防箇所の情報共有と関係市町との共同点検の実施(国管理区間)

③一刻も早く災害から復旧するための取り組み

【個表No. 32】 設置運用、ボランティア活動等 の取組

- ・九頭竜川・北川に関する河川情報等の迅速な状況把握と関係機関への情報提供と共有
- ・緊急時に早急かつ的確な対応を行うため大規模災害を想定した排水ポンプ車の最適配置計画の作成
- ・基地被災時を想定した衛星通信車や対策本部車を利用した訓練
- ・ボランティアの効率的な活動を支援するため、「福井県社会貢献活動支援ネットシステム」の活用できるよう拡充を検討

【個表No. 30】

【個表No.30】 危機管理に関する事項

- インターネットにより、雨量、水位、水質、ダム情報、洪水予報、水防警報、ダム放流通知や河川情報としてライブ映像について、リアルタイムで発信し、洪水時、異常湧水や水質事故等が発生時等には福井県、報道機関への映像提供を行っている。
- 防災対策や住民の避難行動の判断をより分かりやすくするため水位計やCCTVカメラの情報を提供する。

国土交通省 川の防災情報

全国の雨量分布

河川の水位と雨量の状況 浸水想定区域図

地域を選択してください

北海道	東北	関東	北陸
中部	近畿	中国	四国
九州	沖縄	全国	

市町村名・都道府県名から探す

郵便番号・市外局番から探す

郵便番号 市外局番

大雨が降っている、または、河川の水位が高い観測所

地上雨量が 60分 36mm以上

河川の水位が はん濫注意水位以上

河川の洪水予報の発表地方

- はん濫発生
- はん濫危険水位
- 避難判断水位
- はん濫注意水位

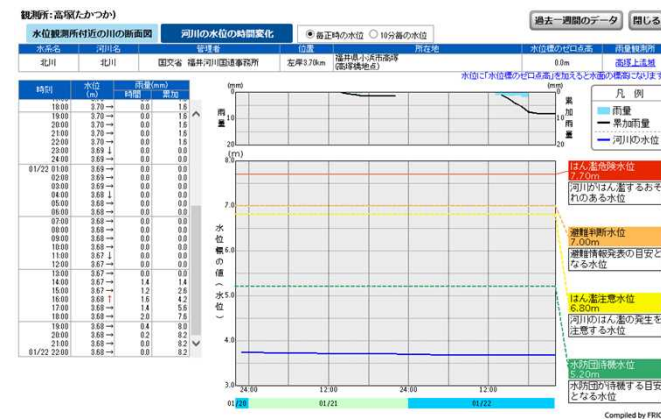
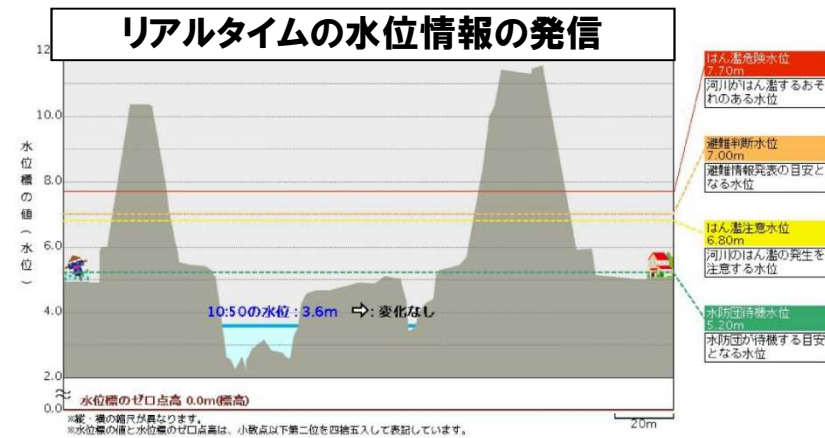
東京都庁: 2018/10/22 22:15

左のリンクボタンからスマホ版サイトを閲覧いただけます。(QRコードを拡大します)

The left button links to XRAIN-GIS designed exclusively for mobile phone. (Enlarge QR code)

Compiled by FRICS

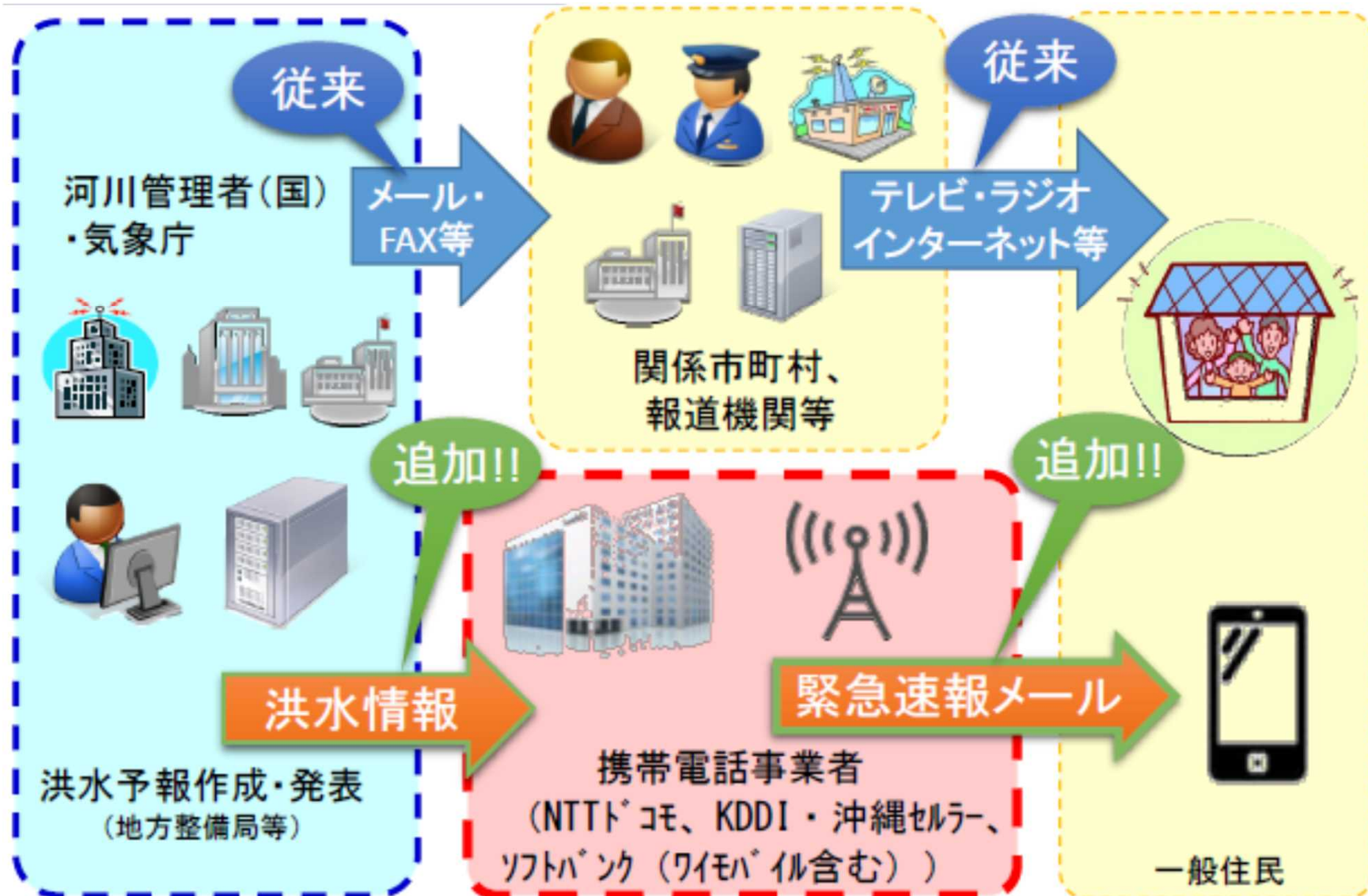
川の防災情報



河川水位の時間変化の発信

【個表No.30】 危機管理に関する事項

住民の避難行動を促すためプッシュ型の洪水予報等の情報発信



【個表No.32】河川に関する学習

- 「水生生物で知る川の健康 川の素顔・命の水」と題して水生生物調査を実施し、多くの参加者があり、北川の河川環境を知っていただく良い機会となっている。
- 「防災補助教材 平成28年度、福井豪雨から10年」を契機とした啓発活動の一環として、県内の小学生とその家族を対象に、防災コンテストを開催した。また、防災補助教材を制作し、県内全小学校や図書館に配布し、各種イベントや自治体の出前授業などで活用した。



第3回 わが家のぼうさいコンテストを開催!

福井県内の小学生を対象として、地域の危険な場所や避難場所を盛り込んだ「防災マップ」のコンテストを開催しました。これは小学生に取り組んでもらうことにより、本人をはじめ協力したご家族や地域の方々の防災意識を高めることを目的として2年前から取り組んでいるものです。

応募対象：福井県内の小学生

募集期間：平成28年7月1日(金)～
平成28年9月8日(木)

審査会：平成28年9月16日(金)

表彰式：平成28年10月10日(月)

主催：ふくいの水防災を考える会
NHK福井放送局
福井新聞社

後援：福井県教育委員会



防災教室、実験コーナー、防災パネル展、起震車体験、受賞作品のパネル展示

表彰式にあわせて、審査委員長（辻子先生）による防災教室や福井地方気象台による実験コーナーでの体験学習、福井市による防災パネル展や起震車体験、受賞作品のパネル展示などを行いました。



最優秀作品



受賞者(40名)【応募総数295点】